

# 令和4年度「全国学力・学習状況調査」 ～鳴門市の結果の概要と今後の対応～

鳴門市教育委員会

## 1 はじめに

鳴門市教育委員会より、保護者の皆様をはじめとする市民の方々に、家庭や地域での子どもたちの学習支援や生活支援の改善などについてご理解とご協力をいただくために、今年度の全国学力・学習状況調査の結果の概要をご報告いたします。鳴門市教育大綱の基本理念「ともに学び 育ち合う 共育のまち鳴門」のもと、全ての児童生徒の学力向上のために、学校教育においてはもちろん、家庭や地域とともに今後も取り組んでまいります。

なお、本調査は特定教科・内容及び特定の学年の学力・学習状況調査であり、調査結果は本市の児童生徒の学力全体を評価したものではありません。

## 2 全国学力・学習状況調査について

### (1) 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### (2) 調査実施日 令和4年4月19日（火）

### (3) 調査対象とする児童生徒・調査内容

小学校第6学年児童 13校 405名 国語、算数、理科、児童質問紙調査  
中学校第3学年生徒 5校 397名 国語、数学、理科、生徒質問紙調査

## 3 令和4年度調査の概観

本市の小学校においては、国語・算数・理科ともに平均正答率が全国を下回りました。中学校においては、国語・数学は全国平均を上回りましたが、理科は下回りました。

平均正答率の分布に着目すると、平均正答率が低い児童生徒の割合は全国・県よりも高く、平均正答率が高い児童生徒の割合は全国・県よりも低くなっています。それぞれの児童生徒の現状と課題を把握し、個に応じた取組を通して、学力の定着を図ることが重要です。

評価の観点から見ると、「知識及び技能」の内容については一定の成果が見られますが、「思考力・判断力・表現力」を要する内容では、小・中学校ともに課題があります。

質問紙調査、質問紙調査と平均正答率とのクロス集計からも、「思考力・判断力・表現力」の向上や「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」に課題が見られました。児童生徒が主体的に学び、自分の考えをしっかりともちながら、表現し合える授業のあり方について、研究と改善を行うことが学校教育に求められます。

また、学習習慣や生活習慣の確立のためには、学力と関係が深いと考えられる自制心や勤勉性、やり抜く力といった非認知能力の育成を目指して、学校と家庭、地域社会が連携し取り組んでいくことが必要です。

## 4 平均正答率（教科に関する調査）

### (1) 平均正答率

校種・教科 平均正答率 (%)	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
鳴門市	62.0	62.0	62.0	70.0	53.0	48.0
徳島県	64.0	62.0	62.0	71.0	55.0	50.0
全国	65.6	63.2	63.3	69.0	51.4	49.3

## (2) 各教科における正答率が高い児童生徒、正答率が低い児童生徒の割合

校種・教科 児童生徒の割合 (%)		小学校			中学校		
		国語	算数	理科	国語	数学	理科
正答率 高い*1	鳴門市	21.7	26.0	25.0	34.3	12.1	6.6
	徳島県	23.7	28.9	26.2	35.5	14.3	7.6
	全国	28.4	30.2	28.6	31.1	13.0	7.4
正答率 低い*2	鳴門市	19.4	19.5	17.2	11.2	30.0	37.5
	徳島県	16.2	19.0	17.9	9.6	28.3	34.5
	全国	15.0	17.8	16.4	10.2	33.7	35.1

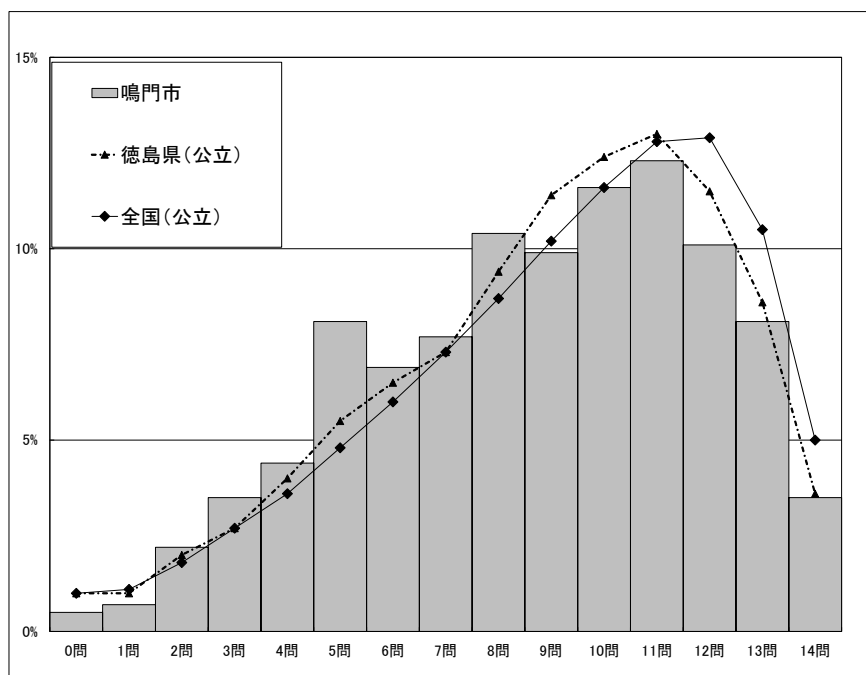
\*1 正答率高い 小学校 国語 12/14 (約 86%)、算数 13/16 (約 81%)、理科 14/17 (約 82%) 以上  
中学校 国語・数学 12/14 (約 86%)、理科 17/21 (約 81%) 以上

\*2 正答率低い 小学校 国語 5/14 (約 36%)、算数 6/16 (約 38%)、理科 6/17 (約 35%) 以下  
中学校 国語・数学 5/14 (約 36%)、理科 8/21 (約 38%) 以下

## 5 教科に関する調査結果

### (1) 小学校 国語

〈正答数分布グラフ〉(横軸は正答数、縦軸は児童生徒の人数の割合)



〈課題が見られた問題〉

#### 小学校国語

問題番号	問題の概要 (問題形式)	出題の意図	平均正答率 (%)		
			鳴門市	県	全国
1	四 「ごみ拾い」か「花植え」のどちらかを選び、その問題点の解決方法をどのように話すかを考えて、50字以上80字以内で書く。(記述式)	互いの立場や意図を明確にしながから計画的に話し合い、自分の考えをまとめる。	44.9	44.6	47.7
2	三 物語の推薦文の空欄に入る内容として適切なものを選択する。(選択式)	表現の効果を考える。	50.6	53.1	59.2
3	二 「伝え合いの様子」をもとに言葉や文を取り上げ、文章のよさを60字以上、100字以内で書く。(記述式)	文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける。	31.6	34.9	37.7

## 概要

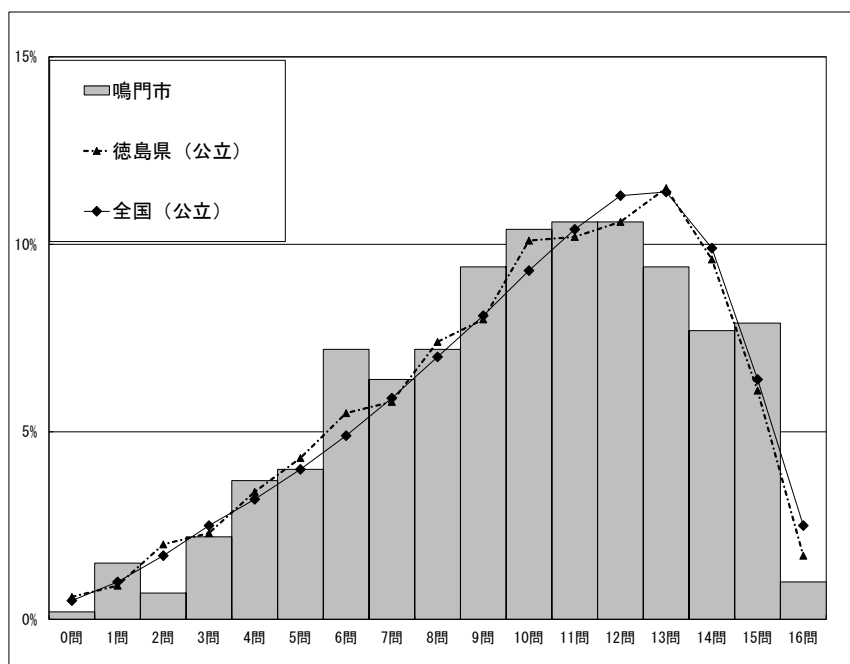
- 小学校の学習指導要領の内容では、「我が国の言語文化に関する事項」の「漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと」が全国を上回っています。
- 記述式の問題に、不得意な傾向が見られました。
- 発言の理由を尋ねる問題<sup>1</sup>二で、友人の意見に「なるほど、いいアイデアですね」と答えている台詞を見て、「質問している」と回答している児童が2割見られました。
- 大問<sup>2</sup>は、主人公「ぼく」がふと立ち寄った店で老人と会い、不思議な体験をする内容です。「ぼく」は、宇宙に行ったりタイムスリップしたりするわけでないのに、選択問題<sup>2</sup>三で34%の児童が「宇宙に行った」「過去から現在に戻ってきた」と選択しています。会話が多く、児童に読みやすい文章ですが、内容を読み取ることができていないと考えられます。

## 改善の方向性

- ・国語科を中心に、全ての学習の中で低学年から「書く」活動を重視します。
- ・内容や文字数などの条件に合わせて、自分の考えを記述する機会を増やします。
- ・国語科を中心に、全ての学習の中で話し合い活動を重視し、他者と関わりながら自分の考えを明確にし、表現する授業を展開します。
- ・何を問われているかを正確に理解して根気よく考える練習、「問い」に書かれてあるキーワードを「本文」から見つけ出して、答えを導き出す練習を行います。
- ・低学年から、基礎基本の力が身につくように指導していきます。

## (2) 小学校 算数

〈正答数分布グラフ〉（横軸は正答数、縦軸は児童生徒の人数の割合）



〈課題が見られた問題〉

### 小学校算数

問題番号	問題の概要（問題形式）	出題の意図	平均正答率 (%)		
			鳴門市	県	全国
<sup>2</sup> (2)	果汁が40%含まれている飲み物の量が1000mLのときの、果汁の量を書く。 (短答式)	百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めることができる。	61.0	61.8	64.6
<sup>3</sup> (2)	分類整理されたデータから、全員の希望が一つは通るように、お楽しみ会の遊びを選ぶ。 (選択式)	分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察できる。	57.8	59.0	63.9

### 小学校算数つづき

3	(3)	1年生と6年生が希望する遊びの割合を調べるためのグラフを選び、そのグラフから割合が一番大きい遊びを選ぶ。 (選択式)	目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることができる。	64.2	65.0	66.8
4	(4)	示されたプログラムでかくことができる図形を選ぶ。 (選択式)	示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断できる。	50.6	54.6	57.6

### 概要

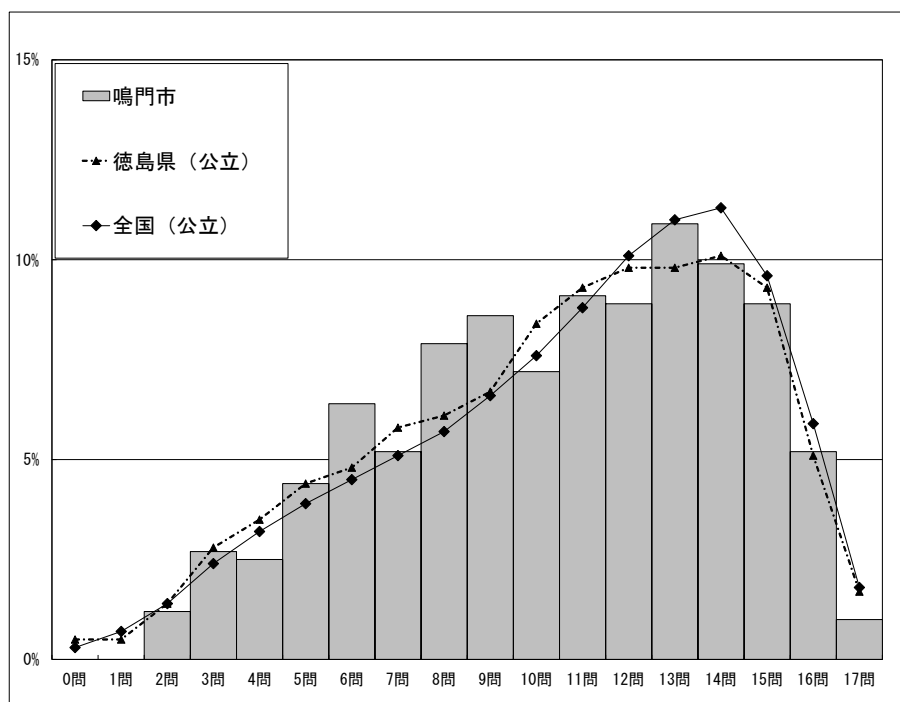
- 学習指導要領の内容「数と計算」は、正答率が県・全国を上回っています。
- 「図形」「変化と関係」「データの活用」は、正答率が全国・県平均を下回っています。
- 記述式の正答率は全国平均と同等ですが、選択式、短答式と比べると無解答率が高くなっています。
- 1 (4)  $85 \times 21$  の答えが  $1470$  より必ず大きくなることを判断するための数の処理の仕方を選ぶ問題では、それぞれの数を四捨五入した回答を選択した児童が半数以上おり、問題の意図を捉えられていないことを示しています。
- 4 (1) では、プログラムでかこうとしたときの正しい命令を見出すことが必要ですが、回転する角の大きさを求めるために  $180 - 60$  の計算をして  $120^\circ$  を導き出す思考に至っていないことが回答類型からわかります。

### 改善の方向性

- ・辺の長さや角の大きさなどに着目して、図形の意味や性質を基に、作図の仕方を考えたり、筋道を立てて説明したりできるようにします。また、「図形の意味や性質、構成する要素」と「プログラミング」のように、2つ以上の領域が組み合わされた問題に対して、考察する力を養います。  
(『R4年度全国学力・学習状況調査報告書』文部科学省 国立教育政策研究所 P70～87参照)
- ・目的に応じたデータのまとめ方や整理されたデータから必要な情報を読み取る等の必要性を実生活と結びつけた指導を行うことで児童に体感させます。
- ・物事を順序立てて考える数学的な思考を大切にするための指導を推進し、授業の展開を工夫します。

### (3) 小学校 理科

〈正答数分布グラフ〉(横軸は正答数、縦軸は児童生徒の人数の割合)



〈課題が見られた問題〉

小学校理科			平均正答率(%)		
問題番号	問題の概要 (問題形式)	出題の意図	鳴門市	県	全国
1 (5)	育ち方と主な食べ物の二次元の表から気付いたことを基に、昆虫の食べ物に問題を見いだして選ぶ。(選択式)	観察などで得た結果を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる。	58.3	63.1	65.5
2 (4)	凍った水溶液について、試してみたいことを基に、見いだされた問題を書く。(記述式)	自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる。	36.0	36.8	39.3
3 (4)	問題に対するまとめから、その根拠を実験の結果を基にして書く。(記述式)	実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる。	31.6	33.0	35.1
4 (2)	夜の気温の変化について、他者の予想を基に、記録の結果を表したグラフを見通して選ぶ。(選択式)	予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、問題を解決するまでの筋道を構想し、自分の考えをもつことができる。	57.3	58.4	64.5

### 概要

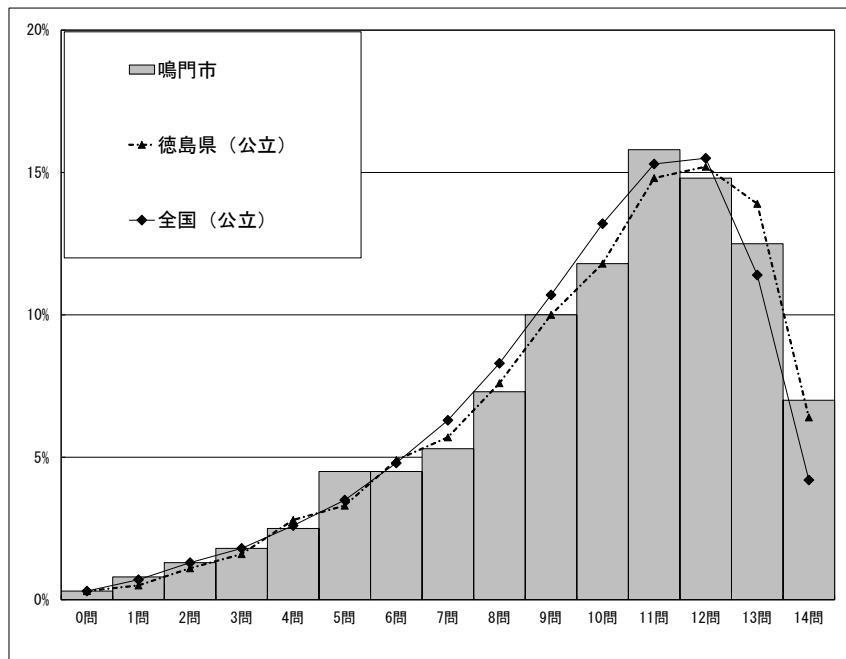
- 「知識・技能」を評価する問題は、正答率が県・全国を上回っています。
- 実験器具の名称や正しい使用方法等を問う問題は、正答率が県・全国を上回っています。
- 「思考・判断・表現」を評価する問題では、正答率が県・全国を下回っています。
- 回答が記述式の問題は、正答率が県・全国を下回り、また無解答率が高くなっています。2 (4) では、自然の事物・現象から得た情報を他者の気付き (問題文) を基に、分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述するということが求められていますが、正答率が低く、また無解答の児童が10.6%見られます。自校の児童が、どの段階でつまづきが見られるのか回答類型から解明し、重点的に取り組むことが必要です。
- 与えられた情報や観察・実験から得られた結果を様々な視点から分析して、解釈し、自分の考えをもつことが不十分です。4 (2) では、「気温は変化しない」という言葉が問題文にあるにも関わらず、気温が変化しているグラフを選択して誤答となった児童が41%見られます。

### 改善の方向性

- ・観察や実験を中核に据えた授業を展開し、学習内容と日常生活とを結びつけられるようにします。
- ・観察や実験を補足するものとして、ICTの効果的な活用を進めます。
- ・身近な自然の事物・現象に対する疑問から学習問題を考え、自分の予想を基に見通しをもって観察や実験の計画を立て、得られた結果からどのようなことが分かったのか考え、まとめるという問題解決型の学習を展開し、科学的思考力の育成に努めます。  
(『R4年度全国学力・学習状況調査報告書』文部科学省 国立教育政策研究所 p45「コラム」参照)
- ・実験や観察結果に対する自分の考えをもつ時間を十分確保するとともに、ペアやグループ等で考えを伝え合い、比較したり共通点や相違点に着目したりして、多様な視点から根拠を明らかにして分析することで学びを深める協働的な学習を大切にします。
- ・児童が学習の過程において、どの段階で、またどのような事柄でつまづいているのかを適切に評価し、指導を工夫します。

#### (4) 中学校 国語

〈正答数分布グラフ〉(横軸は正答数、縦軸は児童生徒の人数の割合)



〈課題が見られた問題〉

中学校国語			平均正答率 (%)		
問題番号	問題の概要 (問題形式)	出題の意図	鳴門市	県	全国
1	二 話の進め方のよさを具体的に説明した ものとして適切なものを選択する。 (選択式)	論理の展開などに注意して聞く。	64.2	65.0	65.1
1	三 スピーチのどの部分をどのように工夫 して話すのかと、そのように話す意図 を書く。 (記述式)	自分の考えが分かりやすく伝わる ように表現を工夫して話す。	48.6	50.0	51.8
3	四 「おれ」は何を「なるほど」と思った のかについて、話の展開を取り上げて 書く。 (記述式)	場面と場面、場面と描写などを結 び付けて、内容を解釈する。	67.9	71.8	73.8

#### 概要

- 学習指導要領の「知識及び技能」の内容について、正答率が全国を上回りました。
- 学習指導要領の「思考力・判断力・表現力」の「書くこと」において、正答率が全国を上回りました。
- 2三では、①資料から一部を抜き出す②引用を「 」でくくる③「例えば」に続くように書くという複数の条件が求められています。正答率は全国より高くなっていますが、「 」でくくるという条件を満たさず誤答となった生徒が31.3%見られました。
- 3四では、全国・県より正答率が下回りました。この問題では、①「おれ」は何を「なるほど」と思ったのか②話の展開を取り上げて書くという2つの条件が求められています。場面で起こる出来事、場面のつながり、「おれ」の心情を理解し、関係づけて読み取ることが必要です。
- 3二「途方に暮れた」の意味の理解については、正答率は83%ですが、全国・県より低い正答率です。

#### 改善の方向性

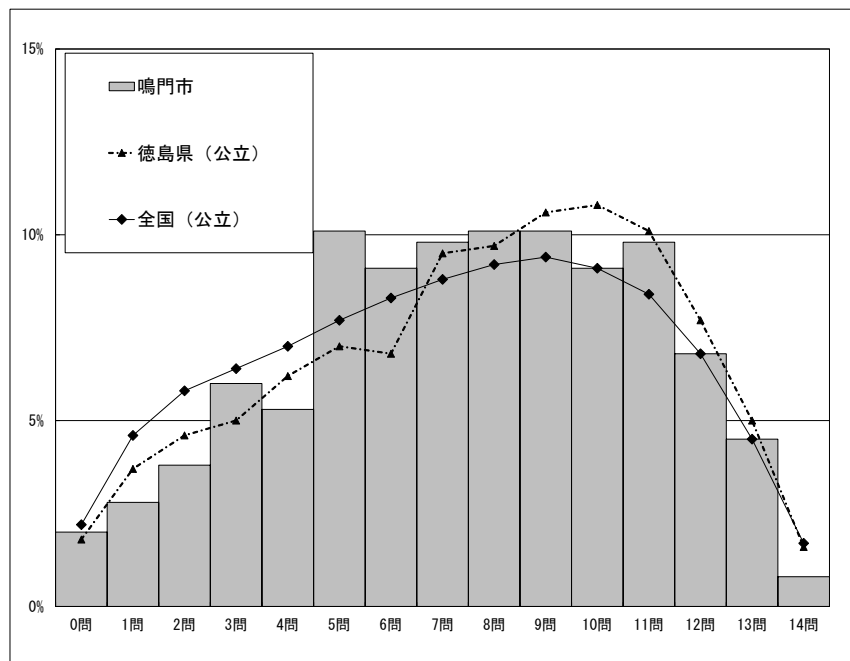
- ・複数の条件に合わせて書くということに課題が見られます。問題の意図と与えられた条件を正しく読み取ること、文章中から条件に合う部分を見いだすこと、与えられた字数や表現方法に従って書くという力が必要です。授業の中で、意図的に条件を提示して、思考、判断、表現する機会を設けていきます。

### 改善の方向性（中学校国語つづき）

- ・音声の働きや仕組みを意識しながら表現を工夫して話したり、聞いたりする体験ができるように、ICT機器を活用するなど、効果を確認する学習活動を取り入れていきます。また、なぜ表現の工夫が必要なのか、自分の意図を説明する場面を設定します。  
 『R4年度全国学力・学習状況調査報告書』文部科学省 国立教育政策研究所 p 27～29 授業アイデア例・コラム参照
- ・文学的な文章を味わう際に、場面や描写から分かることだけでなく、複数の場面を結び付けたり、場面と登場人物の心情や行動、情景等の描写とを結び付けて解釈したり、意見を交流したりする学習活動を工夫します。  
 『R4年度全国学力・学習状況調査報告書』文部科学省 国立教育政策研究所 p 51～53 授業アイデア例参照
- ・読書活動で新しく出会った言葉を取り上げ、調べたり、別の言葉に言い換えたりする学習や自主学習の工夫を行えるようにします。

## (5) 中学校 数学

〈正答数分布グラフ〉（横軸は正答数、縦軸は児童生徒の人数の割合）



〈課題が見られた問題〉

中学校数学			平均正答率 (%)		
問題番号	問題の概要（問題形式）	出題の意図	鳴門市	県	全国
7 (1)	コマ回し大会で使用するコマをヒストグラムの特徴を基に選び、選んだ理由を説明する。 (記述式)	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。	38.3	42.0	44.0
8 (1)	与えられたグラフにおいて、点Eの座標を書く。 (短答式)	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる。	52.6	55.3	54.6
8 (2)	目標の 300 kg を達成するための日数を求める方法を説明する。 (記述式)	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。	34.3	37.3	38.4
9 (1)	証明で用いられている三角形の合同条件を書く。 (短答式)	証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している。	71.0	73.3	73.2
9 (2)	$\angle ABE$ と $\angle CBF$ の和が $30^\circ$ になる理由を示し、 $\angle EBF$ の大きさがいつでも $60^\circ$ になることの説明を完成する。 (記述式)	筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができる。	10.3	12.2	12.5

## 概要

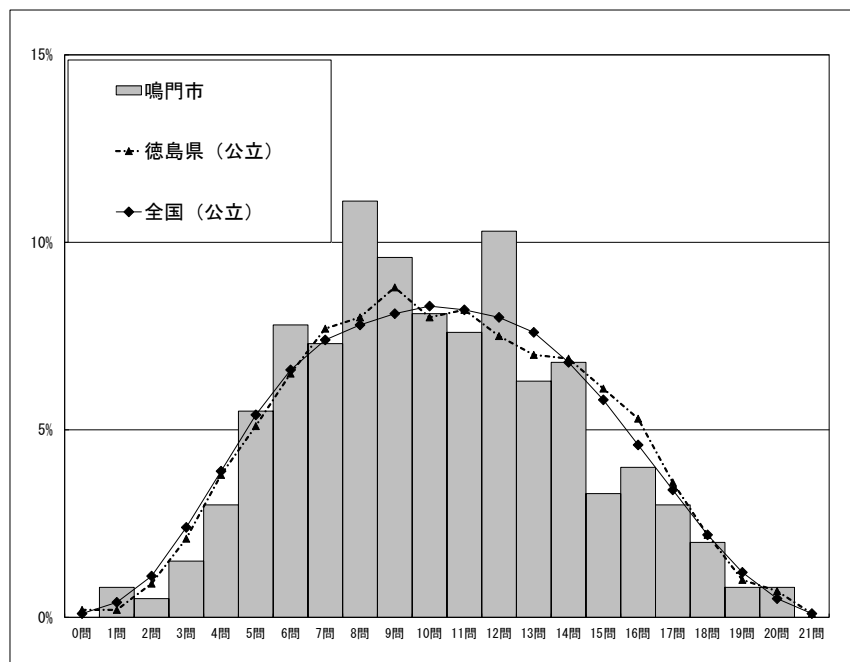
- 「数と式」の内容では、正答率が全国を上回っています。
- 「図形」「関数」「データの活用」の内容では、正答率が全国を下回っています。
- 評価の観点「思考・判断・表現」の記述式の問題では、正答率が全国を下回っています。
- 「短答式」や「選択式」で「知識・技能」を問われる問題は県や全国を上回っていますが、「記述式」で「思考・判断・表現」を問われる問題では、課題が見られます。また、記述が十分ではなく正解に至っていない回答類型の割合が高くなっており、表現力にも課題が見られます。
- 知識として記憶していても、それらを活用することに課題が見られます。
- 言葉や方法を記憶していても、概念としての理解に課題が見られます。

## 改善の方向性

- ・習得した知識や技能を活用する場を多く設定する授業を作っていきます。
- ・知識や技能を習得させる際に、その公式や定義の概念を理解させる工夫が必要です。数学的な活動を通じた、知識・技能の習得をさせることで概念の理解を深めていきます。
- ・「表現力」を習得させるために、①根拠が明らかな状態で解答を作成する時間を作る。②自ら根拠を明らかにし、あらゆる場面で「根拠を踏まえた説明」の練習をする。ということを教師が意識して取り組んでいきます。
- ・「思考・判断・表現」の中でも、各生徒が具体的にどこにつまずきを感じているのかを教師が理解し、その生徒に合う手立てを行います。

## (6) 中学校 理科

〈正答数分布グラフ〉（横軸は正答数、縦軸は児童生徒の人数の割合）



〈課題が見られた問題〉

中学校理科			平均正答率(%)		
問題番号	問題の概要 (問題形式)	出題の意図	鳴門市	県	全国
2 (2)	気圧、気温、湿度の変化をグラフから読み取り、雲の種類の変化と関連付けて、適切な天気図を選択する。 (選択式)	継続的に記録した空の様子を撮影した画像と百葉箱の観測データを天気図に関連付けて、天気の変化を分析して解釈できるかどうかをみる。	38.5	42.2	40.8



## 中学校理科つづき

5 (3)	考察の妥当性を高めるために、測定範囲と刻み幅をどのように調整して測定点を増やすかを説明する。(記述式)	考察の妥当性を高めるために、測定値の増やし方について、測定する範囲と刻み幅の視点から実験の計画を検討して改善できるかどうかをみる。	36.3	41.8	43.3
7 (2)	吸湿発熱繊維に水蒸気を多く含む空気を通した一つの実験だけで行った考察について、課題に正対しているかどうかを検討し、必要な実験を指摘する。(選択式)	実験の結果が考察の根拠として十分かどうか検討し、必要な実験を指摘して、実験の計画を改善できるかどうかをみる。	46.9	49.8	53.4
8 (2)	予想や仮説と異なる実験の結果が出る場合、その意味することや考えられる可能性について考え、実験の操作や条件制御の不備の可能性を指摘する。(記述式)	予想や仮説と異なる結果が出る場合について、結果の意味を考え、観察、実験の操作や条件の制御などの探究の方法について検討し、探究の過程の見通しをもつことができるかどうかをみる。	51.1	51.9	55.1

### 概要

- 知識理解を問う問題は正答率が高くなっています。
- 教科書に掲載されている図を使った問題も正答率が高くなっています。
- グラフの書き表し方や読み取りについて問われる問題では、正答率が低く、理解が十分とはいえません。
- 観察、実験の操作や条件の制御などの探究の方法について検討し、探究の過程の見通しをもつことが十分にできていないと考えられます。それに伴って実験の計画を改善することも困難になっていると考えられます。授業では多くの場合、同じ実験を全員が行いますが、実験によって真理を探究する過程を考えさせる授業が必要と考えられます。

### 改善の方向性

- ・カリキュラムの中で時間配分を工夫し、次のような学習に取り組めます。
  - ①自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てさせる。
  - ②観察や実験の進め方、記録の仕方、グラフの種類やメモリの幅について、間違っていないか、より良い方法はないか考えさせる。
  - ③観察や実験の結果をもとに考察をさせる。
- ・鳴門市の生徒の約半数は上のような取組をしていると答えており、その半数の生徒は学力が高い傾向にあります。実験は班で行われることが多く、得意な生徒が中心になって進めていると考えられます。タブレット端末を有効に使って時間短縮を図り、時間がかかっても全ての生徒に取り組ませていくことで力が定着します。

## 6 児童生徒質問紙による調査結果

(1) 肯定的な回答(「1.当てはまる」等)の割合が、全国を上回っている項目より

### 小学校

番号	質問項目【 】カテゴリーは、「R4年度全国学力・学習状況調査報告書」(文部科学省国立教育政策研究所)参考	鳴門市 (%)	国 (%)	市一國 (%)
13	いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか。【規範意識】	92.4	83.9	8.5
15	人の役に立つ人間になりたいと思いますか。【自己有用感】	81.0	75.1	5.9
16	学校に行くのは楽しいと思いますか。【達成感、自己有用感等】	60.3	51.7	8.6
50	国語の勉強は大切だと思いますか。【国語】	79.6	69.3	10.3
54	算数の勉強は大切だと思いますか。【算数】	82.3	76.6	5.7
61	理科の勉強は好きですか。【理科】	60.8	49.3	11.5

### 中学校

番号	質問項目【 】カテゴリーは、「R4年度全国学力・学習状況調査報告書」(文部科学省国立教育政策研究所)参考	鳴門市 (%)	国 (%)	市一國 (%)
13	いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか。【規範意識】	86.8	82.6	4.2
15	人の役に立つ人間になりたいと思いますか。【自己有用感】	78.7	73.5	5.2
16	学校に行くのは楽しいと思いますか。【達成感、自己有用感等】	57.5	45.8	11.7
18	友達と協力するのは楽しいと思いますか。【達成感、自己有用感等】	71.1	66.2	4.9
50	国語の勉強は大切だと思いますか。【国語】	71.4	63.1	8.3
52	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。【国語】	63.0	55.6	7.4

(2) 肯定的な回答(「1.当てはまる」等)の割合が全国を下回り、課題と考えられる項目より

### 小学校

番号	質問項目【 】カテゴリーは、「R4年度全国学力・学習状況調査報告書」(文部科学省国立教育政策研究所)参考	鳴門市 (%)	国 (%)	市一國 (%)
7	自分にはよいところがあると思いますか。【自己肯定感】	36.0	39.4	-3.4
9	将来の夢や希望をもっていますか。【挑戦心】	58.4	60.4	-2.0
30	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。【地域や社会に関わる活動の状況】	13.8	17.6	-3.8
32	5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。「ほぼ毎日」と回答【ICT活用】	16.7	26.7	-10.0
45	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。【総合的な学習の時間】	28.6	31.7	-3.1

### 中学校

番号	質問項目【 】カテゴリーは、「R4年度全国学力・学習状況調査報告書」(文部科学省国立教育政策研究所)参考	鳴門市 (%)	国 (%)	市一國 (%)
32	1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか。「ほぼ毎日」と回答【ICT活用】	4.3	21.6	-17.3
38	1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。「発表していた」と回答【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況】	14.7	22.5	-7.8
39	1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況】	28.1	31.2	-3.1
45	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。	19.5	28.4	-8.9
63	理科の授業の内容はよくわかりますか。【理科】	21.8	30.9	-9.1

## 7 クロス集計の結果より

クロス集計で選択肢ごとの平均正答率を比較していますが、調査数が多くないため、ごく少数の回答結果の影響を受けることもあります。このことをふまえた上で、傾向と改善の方向性を★に示しました。  
網かけ部分は、各教科の平均正答率が最も高いことを表しています。

### 小学校

(20) 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）。		児童数 (人)	児童数の 割合(%)	平均正答率(%)		
選択肢				国語(14問)	算数(16問)	理科(17問)
1	よくしている	113	28.0	67.1	67.9	68.0
2	ときどきしている	181	44.8	61.1	61.0	60.5
3	あまりしていない	90	22.3	59.4	56.6	59.3
4	全くしていない	20	5.0	51.8	53.8	47.1

★自分で計画を立てて家庭学習に取り組む児童が正答率が高くなっています。宿題だけでなく、自分に必要な学習について考え、計画が立てられる力をつけていきます。

(26) 読書は好きですか。		児童数 (人)	児童数の 割合(%)	平均正答率(%)		
選択肢				国語(14問)	算数(16問)	理科(17問)
1	当てはまる	170	42.1	65.8	65.2	67.0
2	どちらかといえば、あてはまる	135	33.4	63.5	61.8	61.3
3	どちらかといえば、あてはまらない	52	12.9	53.0	56.9	53.6
4	当てはまらない	47	11.6	53.5	53.2	52.6

★読書が好きな児童は、「当てはまらない」と回答した児童より、全教科において正答率が高くなっています。思考力・判断力・表現力を高めるためにも、読書を推進します。

(38) 5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。		児童数 (人)	児童数の 割合(%)	平均正答率(%)		
選択肢				国語(14問)	算数(16問)	理科(17問)
1	発表していた	97	24.0	67.5	67.3	66.0
2	どちらかといえば、発表していた	162	40.1	65.2	63.3	64.7
3	どちらかといえば、発表していなかった	102	25.2	55.5	57.6	55.0
4	発表していなかった	35	8.7	53.5	51.8	56.5
5	考えを発表する機会はなかった	8	2.0	49.1	50.8	55.9

★自分の考えを伝えるために、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表した児童は、正答率が高くなっています。相手意識をもち、工夫して伝える場面を授業に取り入れていきます。

国1 今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか。		児童数 (人)	児童数の 割合(%)	平均正答率(%)		
選択肢				国語(14問)	算数(16問)	理科(17問)
1	全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した	318	78.5	66.3	65.5	65.1
2	書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあった	79	19.5	47.8	49.2	51.5
3	書く問題は全く解答しなかった	5	1.2	37.1	36.3	34.1

★最後まで書こうと努力した児童が多く、その正答率も高くなっています。粘り強く学習に取り組む態度と書く力を育てていきます。

**中学校**

(39)	1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。					
選択肢		生徒数 (人)	生徒数の 割合 (%)	平均正答率 (%)		
				国語 (14問)	数学 (14問)	理科 (21問)
1	当てはまる	111	28.1	76.7	59.9	53.8
2	どちらかといえば、当てはまる	174	44.1	71.0	54.6	49.3
3	どちらかといえば、当てはまらない	88	22.3	64.9	45.1	41.7
4	当てはまらない	22	5.6	57.8	39.3	39.0

★主体的に学習に取り組む姿勢が学力にも関係していると考えられる結果です。授業において、自分で考える機会を取り入れるとともに、その姿勢を評価し、さらに意欲を高めていきます。

(43)	学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。					
選択肢		生徒数 (人)	生徒数の 割合 (%)	平均正答率 (%)		
				国語 (14問)	数学 (14問)	理科 (21問)
1	当てはまる	129	32.7	75.5	60.0	53.3
2	どちらかといえば、当てはまる	165	41.8	70.2	53.9	48.0
3	どちらかといえば、当てはまらない	67	17.0	66.7	46.2	45.4
4	当てはまらない	20	5.1	62.1	40.4	37.6
5	学級の生徒との間で話し合う活動を行っていない	14	3.5	58.2	32.7	35.7

★友人との対話を通して考えを深め、広げることは、学力にも関係していると考えられます。コロナ禍において、話し合い活動の機会は少なかったかもしれませんが、方法を工夫しながら今後、積極的に取り組みたい活動です。

(44)	学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。					
選択肢		生徒数 (人)	生徒数の 割合 (%)	平均正答率 (%)		
				国語 (14問)	数学 (14問)	理科 (21問)
1	当てはまる	86	21.8	76.0	60.5	52.9
2	どちらかといえば、当てはまる	187	47.3	71.0	56.2	50.4
3	どちらかといえば、当てはまらない	99	25.1	68.6	45.0	43.2
4	当てはまらない	23	5.8	54.3	35.7	35.6

★振り返りをすることが大切であることを表している結果です。自分の学習を見つめ直し、次の学習に生かす習慣ができるように、授業の展開を考え、家庭学習への取り組み方を指導していきます。

(58)	数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか。					
選択肢		生徒数 (人)	生徒数の 割合 (%)	平均正答率 (%)		
				国語 (14問)	数学 (14問)	理科 (21問)
1	当てはまる	139	35.2	75.5	63.5	54.8
2	どちらかといえば、当てはまる	154	39.0	70.5	53.0	47.4
3	どちらかといえば、当てはまらない	75	19.0	65.0	41.9	42.9
4	当てはまらない	27	6.8	60.3	32.0	34.7

★あきらめずにいろいろな方法を考えることが、数学科だけでなく他の教科でも学力につながっていることを表している結果です。生徒がどこでつまづいているのかを適切に評価し、途中であきらめず、粘り強く取り組んでいけるように指導を工夫します。

## (2) 肯定的回答の平均正答率、否定的回答の平均正答率の差より

本市の児童生徒の平均正答率と児童・生徒質問紙の69の質問項目との関係に着目し、平均正答率と関係の深いと思われる（因果関係を示すものではない）質問項目を分析しました。

各質問項目を比較するために、クロス集計を用い、肯定的回答（例：「している」「どちらかといえばしている」等）をした児童生徒の平均正答率、否定的回答（例：「あまりしていない」「全くしていない」等）をした児童生徒の差を教科ごとに算出し、小学校では国語と算数、中学校では国語と数学の差の合計値を比較しました。

質問項目ごとの差の合計値の大きさが、平均正答率との関係を表していると考え、校種ごとに大きさ順に並べ、校種間に共通する質問項目や校種ごとに特徴が見られた質問項目を下に挙げています。

### 小・中学校に共通する上位質問項目

「国語の勉強は大切だと思いますか」

「算数（数学）の勉強は大切だと思いますか」

「友達と協力するのは楽しいと思いますか」

「読書は好きですか」

「あなたの家にはおおよそどれくらいの本がありますか」 101冊以上/100冊未満

### 小学校での他の上位質問項目

「いじめはどんなことがあってもいけないと思いますか」

「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」

「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか」

「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか」

### 中学校での他の上位質問項目

「朝食を毎日食べていますか」

「新聞を読んでいますか」

「普段（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、スマートフォンを含む）をしますか」（2時間以上／2時間未満）

「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間勉強をしますか」（1時間以上／1時間未満）

「自分にはよいところがあると思いますか」

### 概要

- ・「国語の勉強は大切」「算数（数学）の勉強は大切」と肯定的に回答した児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られます。
- ・「友達と協力するのは楽しい」と肯定的に回答した児童生徒の方が、教科の正答率が高い傾向が見られます。
- ・「読書が好き」と肯定的に回答した児童生徒、家の蔵書数が多い児童生徒は、教科の平均正答率が高い傾向が見られます。

### 今後の対応

- ・自らの学びと将来や社会のつながりを意識する経験（キャリア教育）を蓄積し、「何のために勉強するのか」といった学ぶことの意味を児童生徒が見いだすことにより、学習動機（目的意識）、学ぶ意欲を育成していきます。
- ・学習習慣や生活習慣の確立に必要な、非認知能力（自己肯定を土台とした自制心や勤勉性、やり抜く力）を育むために取り組んでいきます。

## 8 今後の取組方針

学校と市教育委員会では次のことを積極的に推進します。

- 本調査の結果と分析から、「学力」を多面的に捉え直すとともに、「学力向上において目指す本市の児童生徒の姿」を明確にし、その具現化を図ります。
- 児童生徒の学力向上につながる学習支援・生活支援の具体的な方法について、学力向上推進委員会、校内学力向上推進員情報交換会、市教委指導主事会で検討し、市全体で取り組んでいきます。
- 児童生徒の学力の実態を適切に把握し、教育課程に基づいた組織的・計画的な取組を通して、教育活動の質を向上させ、学力向上を目指します。また、学校教育の効果を常に検証して改善していきます。
- 家庭との連携のもと、学力向上の礎となる基本的な生活習慣の確立を図ります。
- 本市の児童生徒の課題をふまえ、若手教職員研修をはじめとする教職員の研修内容の充実を図り、授業改善に取り組んでいきます。
- 目標をもち、あきらめずに努力できる子どもを育成するためにキャリア教育を推進し、自制心ややり抜く力など非認知能力の育成を図ります。
- 就学前教育・保育施設、小・中学校における連携を深め、「学びの継続」を目指して、ともに取り組んでいきます
- 「学校評価・鳴門プラン」を活用し、PDCAサイクルを生かした学力向上を図ります。

家庭や地域では次のような取組の推進をお願いします。

- 「早寝・早起き・朝ご飯」の習慣の定着を図りましょう。
- 時間の使い方について、お子さんとよく話し合い、スマートフォンやゲームの使用時間、学習や読書、運動時間を決定し、望ましい学習習慣、生活習慣の定着を図りましょう。
- 学校行事等に積極的に参加するなど、学校との連携を図りましょう。
- 地域や社会のニュースについて話す機会を増やしましょう。
- 地域行事やボランティア活動への参加を促しましょう。
- 夢や目標について語り合い、物事をあきらめず、根気よく最後まで取り組めるような言葉かけをしましょう。
- お子さんとの会話を大切に、学校や家庭での生活状況の把握に努めましょう。